

2026年度(令和8年度)学校経営計画

2026年(令和8年)4月1日
学校名 福山市立広瀬学園

I 学校の状況

(1) 学級数(全13学級)

【小】: 8学級(通常学級 6, 特別支援学級 2)

【中】: 5学級(通常学級 3, 特別支援学級 2)

● 児童・生徒の状況

本校は、不登校状況にあった児童生徒をはじめ、大きな集団での生活が難しい児童生徒、近隣の児童養護施設に在籍の児童生徒、その他にも発達課題や様々な背景を持つ児童生徒、本校の教育環境に魅力を感じ本校を希望する児童生徒が入学または編入してきています。現在は、小学校 35名、中学校 44名の計79名の児童・生徒が在籍しています。

● 基本的な考え方

○ 学校教育目標 『心豊かで 主体的に学び たくましく生きる子どもの育成』

○ めざす子ども像

【自律】・・・『自分らしく ハッピーに！(自律)』 ※大人も、子どもも
～夢や目標に向かって見通しをもち、ねばり強く行動できる子ども～
・自分らしく、ありのままの自分でいられること。自分らしく学び、成長していくこと
・「強み」、「長所」、「好き」を、どんどん膨らませ、どんどん成長する。
・自分自身を深く知り、「自分で育つ・自分で伸びる」子どもたちに。

【共生】・・・『仲間と共にハッピーに！(共生)』

● 育てたい資質・能力

【基礎的な知識・技能】

→ 基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得しながら、既存の知識・技能と関連付けたり、組み合わせたりしていくことにより、知識・技能を定着するとともに、新たな課題を発見し、多様な他者と協働したり、よりよい解決方法を選択したりすることで、目的に応じた解決策を導き出したり、実行したりすることができる。

【課題発見・解決能力】

→ 物事を多面的に見たり、経験や知識を活用したりする中で、新たな課題を発見し、多様な他者と協働したり、よりよい解決方法を選択したりすることで、目的に応じた解決策を導き出したり、実行したりすることができる。

【コミュニケーション力】

→ 多様な他者と協働することで、新たな考えを創造し、適切かつ効果的な解決策を導き出すことができる。

● 取組の2本柱 +

(1) 【新教科 広瀬タイム】 (学びの個性化)

①「自分発見」②「仲間とともに」③「地域とともに」の3つのテーマ

(2) 【個別のサポート計画】 個別最適な学び(指導の個別化)の推進

多様な視点・分野から分析し、個に応じた目標設定・支援・振り返りを行う

+

(3) 【広瀬流 『安心』の作り方】 ※ 児童・生徒の心理的安全性の構築

● 学園のミッション

- ① **学校が楽しい 100% 学校に行きたい 100%** 来なくなる学校・行きたくなる学校に
・学校に来させる…ではなく、あらゆる手段を使い、来なくなるように。
・学校に行きたくても行けない児童・生徒の「最後の砦」としての使命
- ② **自分は、成長している 100%** (自己効力感・自己成長感)
- ③ **目的は「幸せな大人になること」「幸せな未来を掴むこと」「幸せな人生を送ること」**
・学校に来なくても人生は終わりじゃない。幸せな大人になるために今できることを。家でも学校でも。

Ⅰ 地域社会における我が校の使命（ミッション）

へき地・小規模校として地域からの学校を大切に思う気持ちを受け止めるとともに、広く市民からの要望に応えられる広瀬学園中学校教育を推進する。

●昭和55年（1980年）7名在籍，教育後援会発足（空家バンク制度）

通学バス代金補助（町内会3割・後援会2割）

★少人数の中できめ細かい指導をしてほしい（学習個別指導・関わり・活躍の場）

★落ち着いた雰囲気の中で生活したい

● 本学園が大切にしていること

本校が大切にしていること、それは「自分らしさ」です。苦手なことやできないこと、「～しなければならない。」への葛藤、そんな経験を続けていくうちに、いつしか自分への自信や学びへの意欲を失ってしまう子どもたちがいます。人とちがっていい、同じじゃなくてもいい。「自分らしさ」を大切に自分自身を好きになってほしい。自分の可能性と未来を信じられる人になってほしい。その子それぞれの中にある内なる輝きに光を当て、磨き、輝かせる、それが広瀬学園の果たすべき役割だと思っています。

相談室・保健室・のんびりルーム・天空の城・たくさんのフリースペースなど、できるだけ多くの安心できる居場所づくりや、独自教科「広瀬タイム」を中心とした「やりたい」をベースにした学び、別室授業やオンラインを織り交ぜた自己選択の学びや、「先取り」や「学びなおし」など自分に合ったペースでの学びなど、「自分らしい学び」を推進し、自分で伸びる子育成に努めています。

また、一人ひとりに「個別のサポート計画」を作成し、個に応じた学びや生活力の向上に向けた支援も行っています。フリースクールの要素も柔軟に取り入れ、自分たちの学びを進める作業工房（小さな楽園）も設置するなど、多様な学びを展開しているのも本校の特徴的なところ です。

● 本学園が大切にしたい考え方

● 「自分らしさ」を大切に。

・「強み」や「好き」を核として。子どもも先生も

● 「30人いれば、30通りのやり方で」 ※「個別最適な学び・個別最適な支援」

・ ※一人一人それぞれの学び方・支援の在り方

● 「教育の当たり前」「～ねばならない」を見直す ※価値観の解除

・当たり前…と思っていた価値観を見直すこと 例)：「大きな声であいさつをしよう」

● 子どもの「楽しい」「やりたい」「わくわく感」を大切に

・「好き」や「楽しい」「やりたい」に勝るエネルギーはない。

・「できる」こと（正解重視になりがち）よりも、「楽しい」感覚が、「また、やりたい」につながる。「やりたい」が続けば、そのうちできるようになる。

・それは、子どもが本当にしたいこと？ 先生がしたいこと？ 「子どものため」を都合よく使っていない？

● 「待つこと」と「対話すること」 ※それこそが「自律」と「成長」を促す

- ・教えたことは、教えない。気づくまで待ってみる。今、できなくても、わからなくても、急がず待ってみる。
- ・対話とは…、理由・思い ほぼ聴くこと。価値観の押し付けにならないように。

● とにかくたくさん失敗を楽しもう。どんどん失敗しよう。 ※try の数だけ、成長する。

- ・結果ではなく、その過程。大きくなくてもその子自身の 1mm の成長を。その子の生きざまに、注目し気づくこと。

● 学校は、みんなで創る。 ※M (みんなで) T (つくろう) H (ひろせ)

令和7年度(本年度) 広瀬学園 2nd ステージ(1年目) 取組の反省(成果と課題)

取組① 【小中一貫 9年間を通した教育活動の展開】について

- 小中行事の開催(GG・運動会・広瀬万博・学園社会見学関係・生徒会主催行事・広瀬タイム・部活動体験 他)
- 校務分掌再編成(学びデザイン部・子どもサポート部 他)
- 小中一貫風土醸成(職員室配置・MTH研修・共通理解促進等の意識醸成)

取組② 【「広瀬タイム」・「個別のサポート計画」の2本柱の進化・加速】について

- 広瀬タイム ・教師につけたい力(4つ)の推進 ・マイプロ
- 個別のサポート計画 ・(小)概ね

取組③ 【全員が来れる魅力ある学校づくり・かかわりのある学校づくりの推進】について

- 編入児童・生徒 → 段階的で緻密なアプローチにより、登校状況を構築。自分らしい登校スタイル確立

(課題)

- ① 中1接続の難しさ。文化の違い、価値観の違い…
- ② 不登校児童・生徒 ○○人 → 取組は行っているが、膠着状態が続く児童・生徒も多数

令和8年度(次年度) 広瀬学園 2nd ステージ(2年目) 主な取組構想

〈はじめに〉

本学園は、開校4年目(昨年度か)ら第2ステージに入り、これまでの第1ステージ(3年間)の取組をベースに、「学校にきたい」という子どもの願いを叶える最後の砦としての責務を全うすることを第一の目的とし、本校らしさを追究しながら子どもを主語とした唯一無二の学校づくりを継続推進してきた。

本年度は開校5年目、第2ステージの2年目となる。本年度重点推進してきた3つの柱を精査・改善し、次の段階へと進めていく。システムの構築・風土醸成・教職員の力量向上・子どものやりたいを実現する環境づくりを進め、児童・生徒、教職員が「自分らしく ハッピーに」そして「学校が楽しい100%」の学校づくりを全力で推進していく。

〈主な重点取組〉

取組①(継続) 小中一貫 9年間を通した教育活動の展開

- ・前期・中期・後期の取組 ※特に 中期 中1接続の充実
- ・小中行事の充実・小中一貫 異年齢教育推進

取組②(継続) 「広瀬タイム」・「個別のサポート計画」の2本柱をさらに進化・深化

(研究構想) 「自分らしい学び」推進 ～「自律性」(自分で伸びる・自分で育つ)の向上～

※「広瀬タイム」「教科授業」問わず、自律性育成を追求する。

※「自律性」:外部からの指示や制約に頼らず、自分自身の考えや判断、ルールに基づいて目標を設定し、主体的に行動する能力や性質

- ・「個別のサポート計画」 ※ ここでも「自律性」の育成

※ 学力向上・非認知能力の向上を意識した自律型学習者育成のサポートアイテムとして改訂